

【NY 2017/12/13(水)】 COMEX金先物価格(ドル/オンス)

限月	始値	高値	安値	終値	帳入値	前日比	出来高	取組高
2017/12	-	1,248.70	1,239.80	1,248.50	1,245.40	+6.90	294	2,427
2018/01	1,244.00	1,253.60	1,240.80	1,248.70	1,246.90	+7.10	828	1,981
2018/02	1,246.30	1,255.90	1,242.30	1,250.70	1,248.60	+6.90	234,237	337,708
2018/04	1,250.60	1,260.00	1,246.70	1,254.60	1,253.10	+7.00	4,165	28,414
2018/06	1,253.90	1,261.80	1,251.10	1,259.00	1,257.40	+7.00	1,851	35,414
全体							242,283	446,618

Last Updated: Wednesday, 13 Dec 2017 01:32 PM

【NY金概況と分析】 米CPIを受けて上振れ、FOMC後は更に一段高に

11月米消費者物価指数が低インフレ解消に対する期待感を高めることに失敗する中、ドルの軟化と連動して金相場は反発した。引け後には米連邦公開市場委員会(FOMC)の政策発表が行われたが、2018年に向けての金利軌道の引き上げがなかったことが材料視され、更にドル売り・金買いが加速する結果になり、金相場は1,250ドル台後半まで値位置を切り上げている。

アジア・欧州タイムは1,240ドル台中盤で方向性を欠く展開になり、一時1,242.30ドルまで軟化するなど、やや上値の重い展開になった。しかし、ニューヨークタイム入り後は消費者物価指数がドル売り・金買いを誘う展開になり、FOMCの政策発表を控えているものの1,250ドル水準まで反発している。引け後はFOMCの政策発表を受けて1,240ドル台後半まで更に上げ幅を拡大している。

前日は11月卸売物価指数が低インフレ解消への期待感を高めたが、本日発表された消費者物価指数はその流れを更に発展させることに失敗している。前年同月比では前月の2.0%上昇から2.2%上昇まで伸びが加速したが、コアが前月の1.8%上昇から1.7%上昇まで鈍化したことで、必ずしも物価の基調は強くないとの評価が優勢になった。サプライズとなる程に悪い数値でもないが、前日の卸売物価指数でマーケットのインフレ指標改善に対する期待感が高まっていたこと、FOMC前の持ち高調整のニーズの高まりもあって、本日の金相場の上昇を決定づけた。

一方、FOMCでは0.25%の追加利上げが決定された。焦点となったのは当局者の経済予想だったが、フェデラル・ファンド(FF)金利見通しに基づく18年の利上げ回数の中央値が9月時点と同様に3回に留まったことが、ドル売り・金買いを誘っている。詳細に内容をみていくと、成長率見通し引き上げといった金相場に対してネガティブな動きもあったが、当局者全体としては18年の想定利上げ回数を3回から4回に引き上げていくことが見られなかったとの不作為が金価格に対してはポジティブに機能した。FOMC後は米金利低下・ドル安が進行し、つれて金相場は10ドル近い上昇での反応を見せている。また、今回の決定には二人のメンバーが政策据え置きを主張して反対票を投じている。低インフレの評価を巡ってFOMC内の意見が割れていることが再確認されたことも、最近のドル買い・金売りの流れにブレーキを掛けている。

当然にここで政策正常化の難しさがテーマ化されれば、更にドル売り・金買いが進む余地が浮上する。ただ、今FOMCについては「ハト派に傾斜した」というよりも「タカ派に傾斜しなかった」というのが全体的な評価であり、大きなインパクトは想定していない。このまま政治リスクや地政学リスクを抑制する形でリスクオンの地合が維持されれば、金相場の戻り売り優勢の基調には変化が生じないと考えている。

注意事項

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。

本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。

本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。

本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

発行会社

- 【会社名】 マーケットエッジ株式会社 (Marketedge Co., Ltd.)
【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1 (古川ビル4F)
【URL】 <http://www.marketedge.co.jp/>
【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

【執筆者プロフィール】

マーケットエッジ株式会社 代表取締役 小菅 努 (こすげ・つとむ)
1976年千葉県生まれ。筑波大学卒。商品先物取引会社の営業本部を経て、同時テロ事件直後のニューヨーク事務所にてコモディティ・金融市場の分析を学ぶ。帰国後は調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社代表に就任。商品アナリスト・東京商品取引所認定（貴金属、石油、ゴム、農産物）。

E-mail: kosuge@marketedge.co.jp

Twitter @kosuge_tsutomu